

【学校教育目標】「感謝の心を持ち、自ら学び、たくましく生きる子供の育成」



# 学校だより 堂崎つ子

第 6 号

令和 6 年 5 月 31 日

南島原市立堂崎小学校

校 長 末吉 優

## いのりの 灯「キャンドル作り教室」(5年生)開催

5月17日(金)、がまだすドームボランティアの皆様6名をお招きして、5年生19名が、総合的な学習の時間「普賢岳との共生」の学習を行いました。

はじめに、雲仙岳災害記念館館長の 杉本 伸一 さんから「雲仙・普賢岳平成噴火災害」について講話をしていただきました。当時の普賢岳、溶岩ドーム、土石流、火砕流、人々の生活の様子を見ながら講話をしていただく中で、3つの涙 (①大切な命が失われた:悲しみの涙 ②人間の力ではどうにもならない自然の力の大きさ:くやしい涙 ③全国からの支援:温かい心)について話されました。

杉本さんは、「過去にどんな災害があったか、自分たちがどんな所に住んでいて、どのような備えをすればよいか考えることは、自分の命、家族の命、近所の人の命を救うことにつながる。」と話されました。

その後、持ち寄った牛乳パックと溶かした<sup>ろう</sup>蠟を使ってキャンドル作りを行いました。冷やして取り出した蠟に、クレヨンを使って平和を願う、思い思いの絵やメッセージ(願い)をかいて、6月3日に灯されるキャンドルを作成しました。

私たちは、雲仙岳(火山)と共存していることを感じました。キャンドルに思いを込めた子供たちの願いが感じられ、改めて、子供たちの豊かな心を育てる取り組みの一環だったと思います。祈りの灯キャンドル作りをスタートに旧大野木場小学校跡・災害記念館見学を経て、噴火災害について学びを深め、9月に行われる全校集会で発表します。

6月3日の点灯式(19:00 雲仙岳災害記念館)、時間が許される方は、ご家族で参加されてはいかがでしょうか。



<館長:杉本伸一さん> <牛乳パックに入れた蠟をひたすら冷やす> <ろうそく部分を取り出す> <完成したろうそく>

### 【 子供の感想から 】

・「火山のおかげで、プランクトンが豊富で魚が捕れる。その魚で、おいしい寿司が食べられる。火山の恵みを受けていて、おいしいものが食べられるので、みんなが幸せになる。」

・「災害で命を落とした方々の分まで長生きし、幸せになりたい。」「二度と噴火が起こらないように願う。」

## 6年租税教室 5月28日(火)

島原税務署から職員の方が大きなジュラルミンケースを抱えてお見えになり、6年生に租税教室を行っていただきました。子供たちに分かりやすいように、DVDの視聴からはじまりました。「もしも、税金が収められなかったらどうなるか」というテーマでは、救急車、消防車、交通事故への対応等がなされず、あらゆる面で地域住民の生活に混乱を来すという内容でした。私たちが住みよい暮らしを進めていくためにも、税金が有効に活用されることが望まれます。



<重~い。ケースの中は何と……>

## サツマイモ栽培の準備が進んでいます

5月22日(水)・23日(木)の両日、環境整備部の皆さんにより、石灰蒔きや肥料入れを行い、その後、耕運作業、畝作り作業を行っていただきました。また、それに先立ち、子供たちは、生えている草を取ったり、石を拾ったりして、自分たちにできることを行いました。美しく、立派な畝が完成しました。子供たちは、芋の苗植えを待ちどおしく感じています。



< 5月22日：事前の草取り、石拾い > <5月22日・23日：耕運作業と畝作り 環境整備部の皆さん>



恵みの雨も降りました。  
<立派な畝>  
<なおかつ、石拾い等>

## 雨の日だから【5月28日(火)】 自然の恵恩を考える

5月28日(火)は、PTA役員会が行われました。多くの皆様の参加、ありがとうございました。

会議が終わった頃から、ポツポツと小雨が降り出しました。そして、私たちが寝静まっている夜中から明け方にかけて、かなりの雨量が降り、また、ちょうど登校中は激しい雨が降りました。スクールバス利用の子供たちも、学校まで乗車し、ありがたいと感じました。この日はさすがに、車での登校も多く、途中で降車する児童もあり、「傘を差しながら安全に歩行できるかな、安全に横断歩道を渡ることができるかな」と心配しました。

子供たちの姿を見かけると、ありがたいことに、徐行してくださるドライバー、横断歩道の前で停止してくださるドライバーがいらっしゃり、子供たちの安全に気を配っていただいている様子が伺えました。本当にありがとうございます。引き続き、子供たちの登下校の安全には注意を払っていただきたいと思います。また、何よりも、自分を含め、保護者の皆様、地域の皆様の普段の安全運転をよろしくお願いいたします。

午前10時くらいには、雨も上がり、日差しも見え始め、昼休みは、子供たちも運動場で、学年の枠にとらわれず、元気に遊んでいました。また、2年生は、「ピーマンがこれくらいですよ。」と手の大きさを表現しながら、学級園：野菜畑へ勢いよく足を運びました。このところの汗ばむ陽気、時々地面・畑をしめらせてくれる恵みの雨が、野菜や作物の成長を促してくれています。さらに、翌日は、初夏の爽やかな風が吹き抜け、太陽の光がキラキラと輝いていました。

毎日食べているお米、野菜や果物など、私たちの生活を支えている、自然の恵み(太陽や適切な雨)に「ありがたい」という気持ちを抱いていることでしょう。

もうしばらくすると、じめじめとした、長い梅雨に入ります。「もし、雨が降らなかったら…」と考えると、私たちに食料となっている、植物や動物などが育成できるかどうか心配になります。

食事の前の「いただきます」というあいさつは、「自然の恵みに対する感謝の気持ちがこもった言葉」です。御家庭においても、子供たちに「命のありがたみ」について話していただくとありがたいです。

